

ま え が き

衛生研究所は、県民の健康と地域の環境を守るために、その科学的、技術的中核機関として、調査研究や試験検査などの業務を行っています。

平成10年度の当研究所の業務の結果を所報第39号としてとりまとめましたので、ご一読いただき参考にしていただければ幸いです。また、調査研究等についてご意見がございましたら是非お聞かせください。

平成10年度には、和歌山カレー毒物混入事件が発生し、大きな社会問題になりました。その後も類似の事件が発生し、薬物等の検査体制の強化が求められました。

一方、環境問題に関しては、地球温暖化や酸性雨、そして環境ホルモンなど地球規模の課題が大きく取り上げられました。特に、身近な環境ホルモンについては、まだ不明のものも多くありますが、今後取り組んでいかなければならない問題であると考えております。

また、本県は環日本海諸国との国際交流を盛んに行っております。当研究所におきましても、平成7年度から韓国江原道と相互に技術交流を、また、平成10年度からは中国吉林省からも1名の研修員を受け入れて研修を行っています。

衛生研究所を取り巻く環境は、刻々と変化しておりますが、こうした問題に対処するために、調査研究や試験検査の見直しを行うとともに、現在、平成14年度の新築移転を目指して、新しい衛生環境研究所（仮称）の整備を進めているところです。

みなさんのご意見を参考にしながら、その時々課題に対応できる、また、みなさまにも気軽にご利用いただける、開かれた研究所づくりを進めていきたいと考えておりますので、いろいろなご意見をお寄せください。

最後に、鳥取県をさらに住み良くするために、所員一同努力したいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

平成 11 年 11 月

鳥取県衛生研究所

所長 佐々木 一 彦